

令和2年度関西誠鏡会春季レクリエーションのご案内

昨年春の姫路城花見から秋の高野山散策と続いているまるで世界遺産巡りを意図したような企画に負けじと、今回は京都地区会員で明治の一大事業、琵琶湖疎水巡りを計画してみました。何となく知っているけど、なかなか全体像が見えにくい疎水施設に直接触れて、改めてその素晴らしさを確認すると同時に、水路沿いに咲き誇る爛漫の花の下でコロナ騒ぎの鬱陶しさを吹き飛ばす快適な一日を過ごしたいと思いますので振るってご参加下さい。またコース途中からの参加(山科駅)や離脱(御陵、蹴上駅)も可能です。往復の交通機関内では万全のコロナ対応でご参集下さい。

日 時： 令和2年4月4日（土）

場 所： 琵琶湖疎水路（大津市浜大津琵琶湖湖畔～京都市三条鴨川）
全長約13キロ、全体に歩き易い整備された道路

集 合： 滋賀県大津市、京阪電車京津線浜大津駅、改札口
午前9時50分

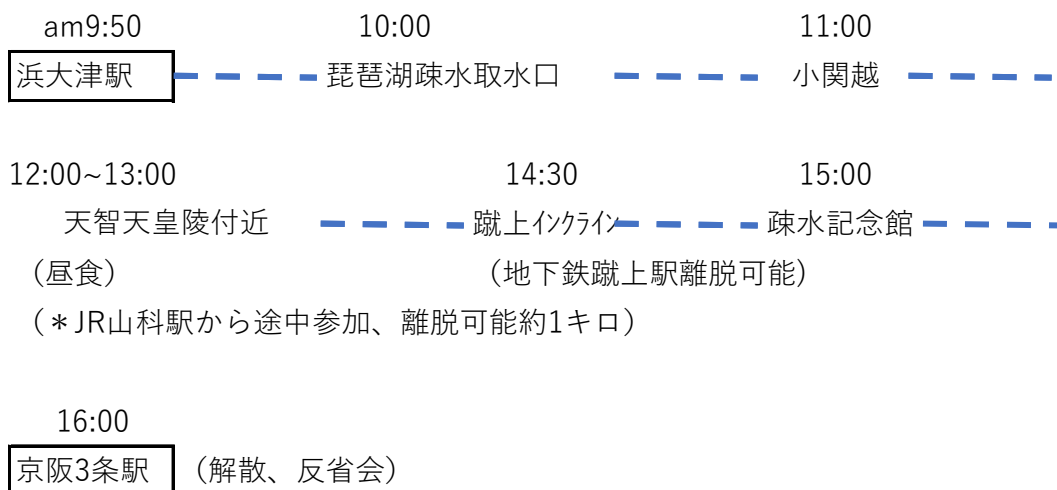
装備、準備

服装：歩き易い圧手のスニーカーが最適、帽子、汗拭き、ステッキ

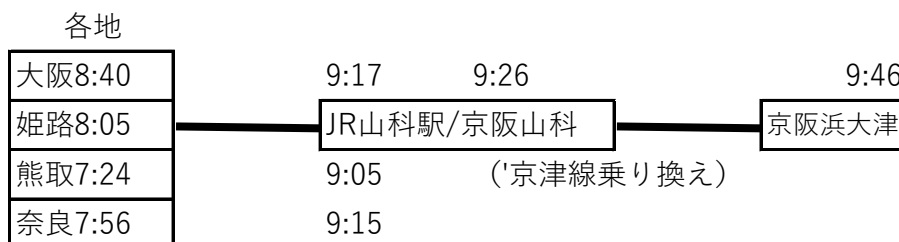
準備：弁当、水筒、敷物、日射が予想の場合日傘、他

浜大津駅と途中一か所にコンビニがある

行 程：



アクセス



担当、案内： 岩尾（高15期）他京都地区会員一同

参考資料

琵琶湖疎水とは？

琵琶湖の水を京都の産業用水や飲料水として利用する為の用水路。
皇室の東京移転（1869）によって中央都市としての機能を喪失し、
衰退の危機に見舞われた京都の活性化、近代化を図るためにとられた
事業の一つ。

京都市域の治水、利水の歴史

京都盆地は北から南へ広がる鴨川、高野川や紙屋川の扇状地に発達し、都市河川
としてはかなり急流な為、治水が難しく、過去から度々氾濫し、その制御に
常に悩まされて来た。

歴史的にも京都は長い間、政治、文化、消費都市として日本の最大都市であり、
時の為政者にとって、その膨大な人口や都市機能を維持するための交通路整備、
飲料水供給、下水排水路等のインフラの整備、保全が政治的に重要課題であった。
この為、治水、利水、航路水運開発などに絶えず模索と努力が続けられる。

奈良期： 大堰川（桂川）の流路整備と取水堰の築造で流域の農業生産を拡大
（秦一族、渡来系技術）

平安期 平安京造成に伴い鴨川の流路を高野川と合流させるように変更させた。
左京市街地を干拓、造成（794平安京遷都）

平安京都市計画、「京城の固め、溝渠を以って本となす」

排水路整備

基準幅は朱雀大路：1.5m、大路：1.2m、小路：0.9m

水路総延長700kmを設置し南北の勾配を利用した用排水路を配置。

しかし政治都市から経済都市への発展により人口が急増し排水路、汚水路
として利用され始め汚染や機能不全をきたし、さらに度々の洪水、氾濫で
汚水が越流、散逸し疫病の流行をまねいた（悪臭都市、祇園御霊会）

15世紀末頃から近郊農業の発達、公衆便所の普及、汲み取り式便所で衛生
状況は飛躍的に改善し、清潔都市化。（人糞の施肥利用）

江戸期：

幕府の水利事業 ・ 瀬田～宇治間の宇治川の流路を整備し、琵琶湖推移を低下させ
近江に20万石の農地開発計画を検討、研究

角倉家の開発事業 ・ 大堰川の流路を改修し、丹波～嵯峨間の船便を開拓（1604）
・ 鴨川の流路改修で洪水制御と三条～鳥羽～淀の水運開発(1610)

(方広寺建築の資材搬入運搬が機会)

・高瀬川開削 (1611)

明治期：

京都の近代産業化、文化、教育都市化を目指し琵琶湖疎水事業を推進し発電、飲料水、産業用水を確保を図った。

中心者： 北垣 国道知事

技術者： 東大生、田邊 朔朗 (卒業論文が採用される)

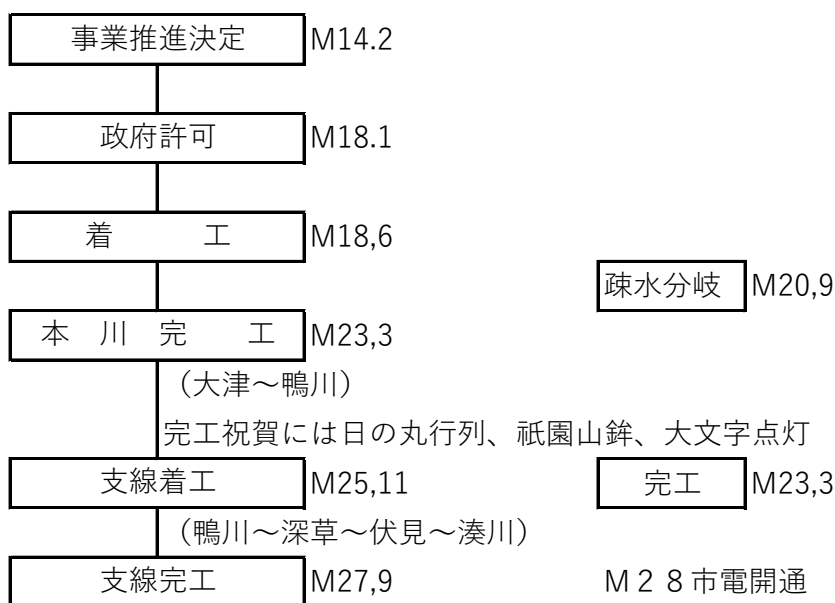
工事終了後東大教授に就任ご京大教授へ

我が国は初めての立坑方式のトンネル掘削など

全て人力で施工され、当時の京都府予算の3年分を投入

琵琶湖疎水事業経緯

第1疎水事業 (大津～鴨川)



第2疎水事業 (大津～蹴上)

